

安城市 学習用タブレット(iPad)使用ガイド〈家庭用〉

はじめに

この使用ガイドは、安城市の小中学生がタブレットを適切に使って学習できるように、まとめています。タブレットは安城市からお子様一人1台お貸しするものです。タブレットは有効に使うと学習効果が高められるツールですが、心配されることもたくさんあります。使用ガイドをご家庭で一緒にお読みいただき、安全に使用してください。

1 目的

新しい時代に必要となる資質・能力「学びに向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の習得を目指し、児童生徒が「自ら考え主体的に行動できる力」を身に付けるためのツールとして活用します。

2 基本的な使い方

- 登下校中は、タブレットをかばんから出しません。
- 使用できる時間は、午後10時までです。
(※午後10時以降は操作ができなくなります。今後の使用状況により変更もあります。)
- 無くしたり、盗まれたり、落として壊したり、水に濡らしたりしないように十分気を付けます。
- 持ったまま走ったり、地面に置いたりしません。
- 物の下に置いたり、横に立てかけたりしません。
- ほこりの多いところでは使いません。
- 指で触れる、または、専用タッチペンを使うようにします。鉛筆などではふれません。
- 磁石など、タブレットの調子の悪くなるものを近づけません。

3 学校で使う場合

- 先生の指示をよく聞きます。
- 休み時間や授業後に使う時も、先生が認めたこと以外には使いません。

4 家庭で使う場合

- 使用する時間は家庭でよく話し合い、細かく休憩しながら使います。
- 家庭で使う場所、置く場所を決めます。
- 食べたり、飲んだりしながら使いません。
- 学習に関連のない使い方はしません。
- 学校へ持ってくるときには、自宅で十分に充電をしておきます。

5 健康のために

- 使用するときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気をつけます。
- 30分に一度は遠くを見るなど、ときどき目を休ませます。
- 就寝する30分前は使いません。

6 安全に使用するために

- インターネットには制限がかけられていますが、もしも怪しいサイトに入ってしまったたり、危険を感じたりしたときは、すぐに画面を閉じ、身近な大人（先生や親）に知らせます。
- 無くしたり、盗まれたり、落として壊したり、水に濡らしたりしたときは、身近な大人（先生や親）に知らせます。

7 個人情報等

- 自分のタブレットを他人に貸したり、使わせたりしません。
- 自分や他人の個人情報（名前や住所、電話番号など）はインターネット上には絶対に上げません。
- 相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。

8 カメラでの撮影

- 学校でカメラ機能を使う時は、事前に先生に伝えます。
- 家庭でカメラ機能を使う時は、事前に保護者に伝えます。
- カメラで誰かを撮影するときは、勝手に撮らず、必ず撮影する相手の許可をもらいます。

9 データの保存

- タブレットで作ったデータやインターネットから取り込んだデータ（写真や動画など）は、学習活動で先生が許可したものだけを学校指定のクラウド、もしくは本体に保存します。
- 私物のパソコン等で、学校指定のクラウドにデータのアップロードまたはダウンロードを行いません。
- 私物のパソコンやUSBメモリなどの記録媒体をタブレットにつなぎません。

10 設定の変更

- 先生や修理する人が使いにくくなるので、デスクトップのアイコンの並び方や位置、背景の画像、色などのタブレットの設定は、勝手に変えません。

11 その他確認事項

- 利用方法について家族と一緒に「情報を正しく使うこと」について考えます。
- 不適切な写真や動画など、ネットに刻まれた情報は半永久的に残るので、未来の自分を苦しめることのないよう、正しい利用をします。
- 違法な画像や動画等をダウンロードして他者の権利や肖像権を侵害しません。
- 学校外でのWi-Fiに接続するときは、家庭など安全性の高いWi-Fiと接続し、通信傍受やID・パスワードなどを抜き取られないようにします。
- 有害なコンテンツにアクセスしたり、課金などをしたりしません。
※有害サイトについてはブロックしていますが、限度があります。問題が発生したときは、すぐ学校に連絡してください。請求額の保証はできませんので、ご注意ください。

12 おわりに

学習用タブレットを1人1台持つことは、令和の時代における学校の「スタンダード」になります。これは、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、安城の子どもたちの可能性を大きく広げるものです。

子どもたちが変化を前向きに受け止め、予測不可能な未来社会を自立的に生活できるよう願っています。